松田優作
・
藤谷美和子
・
小林　薫
・
美保　純
森尾由美
イッセー尾形
羽賀健二
・
笠　智衆
・
川上麻衣子
遠藤京子
泉　じゅん
一宮あつ子
・
草笛光子
・
風間杜夫（友情出演）
・
中村嘉葎雄

原作/夏目漱石
プロデューサー/
黒澤　満
藤峰貞利
脚本/筒井ともみ
撮影/前田米造
美術/今村　力
音楽/梅林　茂（ビクター）
サウンドトラック盤/ビクターレコード
企画/
サンダンス・カンパニー
製作・配給/東映株式会社
協力/株式会社 モリシゲ

森田芳光監督作品

それから
Sorekara

花一輪、ふたつの鉢には盛れません。

そう、あなたは、いつも
むせかえる香りのなかにいた。
漱石ロマンの世界がいま甦る——
新しい日本映画の開花。



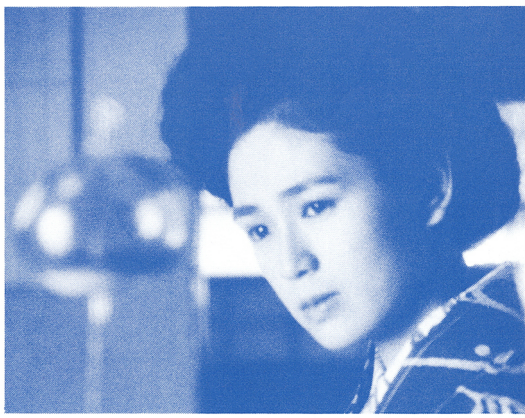
漱石先生、すてきな原作をありがとう。

あの青春が違った終り方をしていたら…。

高等遊民を自認する長井代助は、若き年、秘かに恋していた三千代を青年期特有の義侠心から親友、平岡に嫁がせてしまう。しかし、めぐる歳月は、秘めてきた愛の真実を残酷にも暴くことになる。あの青春の決着はまだついていなかったのだ。三千代への告白は、友情、そして、彼をとりまく家族や社会との断絶をもたらし、あらゆる意味での破局を予感させた。それでもなお、社会にそむく愛に向かって、代助も三千代も走り出していた——

「それから」は、日本の近代文学を代表する文豪・夏目漱石の恋愛三部作「三四郎」「それから」「門」の一つ、最高傑作と評される同名小説の初の映画化である。

自然の風物が人々とともに匂いたつように生きていた明治後期の東京を舞台に、劇的な三角関係を軸に恋愛の神秘を探り、一方で人間のエゴイズムに鋭く迫る——漱石の文学世界が最も色濃く出ている作品である。



若きグランプリ・コンビ監督森田芳光&主演松田優作。

この永遠の国民文学に挑んだのが、「家族ゲーム」で昭和58年度のあらゆる映画賞を席捲し、世界の映画界からも注目された若きグランプリ・コンビ、監督森田芳光と主演松田優作である。

「家族ゲーム」以後、59年「ときめきに死す」「メイン・テーマ」と一作ごとに先鋭な感性に磨きをかけてきた森田演出が、一転して日本のクラシック世界にチャレンジした。そして「家族ゲーム」に次いですぐ「探偵物語」でも大ヒットを飛ばしながらも、以後じっくりと好企画にめぐり逢うまで待ち続けたというスーパースター・松田優作が貯めこんだエネルギーをこの一作に噴出させている。なんとなく物騒な予感をはらむ、映画ファン必見の力作が仕上った。

文部省選定（青年・成人向）

文部省選定（青年・成人向）

優秀映画鑑賞会推薦
森田芳光
■山路ふみ子映画賞
■報知映画賞
最優秀作品賞／最優秀監督賞
日本映画ペンクラブ推薦
全日本教職員連盟推せん
全国高等学校視聴覚教育研究協議会推薦
■日本アカデミー賞・10部門ノミネート
作品賞／脚本賞／監督賞／
主演男優賞／助演男優賞／撮影賞／
照明賞／美術賞／音楽賞／録音賞
日本PTA全国協議会推薦
青少年映画審議会推薦
■キネマ旬報ベストテン第一位
■日本映画ペンクラブ ベスト1
■ブルーリボン賞（スタッフ賞）

現代の感性を集約匂いたつ、明治のロマン。

共演は、三千代役にNHKの朝の連続ドラマ「心はいつもラムネ色」で広範な人気を集めた藤谷美和子。平岡常次郎には映画「風の歌を聴け」「湾岸道路」、TV「ふぞろいの林檎たち」で人気の小林薫が扮し、新境地を拓いている。

さらに、笠智衆、中村嘉津雄、草笛光子のベテラン陣に、風間杜夫、羽賀健二、美保純、森尾由美、イッセー尾形らの若い感性が加わり、豪華な中にも個性豊かな顔ぶれとなっている。

脚本は新進気鋭の女性ライター・筒井ともみ、撮影・前田米造、美術・今村力、音楽・梅林茂、さらにCF界で大活躍のスタイリスト・北村道子も加わり、新鮮で、ユニークで、ファッショナブルな明治が映像化されている。

「それから」——日本映画の新しい流れをつくる、話題の文芸大作である。



妖しくも美しい、新しい日本映画の開花です。

焼酎貴族、目撃。 TRIANGLE 万上焼酎トライアングル by KIKKOMAN

'85年映画賞受賞記念特別ロードショー

2月15日(土)より ■上映時間 連日 11:30 2:00 4:30 7:00

特別鑑賞券¥1000発売中（当日一般1300円 学生1100円の処）

東口伊勢丹新館隣

テアトル新宿 (352) 1846